

平成31年度病害虫発生予察情報 予報第1号（4月）

平成31年4月26日
発表：福島県病害虫防除所

1 普通作物

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
水 稲 (育苗期)	苗立枯病 (ピシウム属菌、フザリウム属菌等による立枯病)	全 域	—	平年並	①天候予報(4月25日発表1か月予報)によると、向こう1か月の気温はやや低い見込みである(+)。 ②播種時の薬剤施用が定着している(-)。	育苗期の大きな温度変化や、過湿・乾燥の繰り返しは発生を助長するので、適切な温度管理を行う。
	細菌性苗腐敗症(もみ枯細菌病、苗立枯細菌病)	全 域	—	平年並	①種子更新率は平年並である(±)。 ②種子消毒剤が細菌性苗腐敗症に対してより効果の高い剤に変更された(-)。	①育苗期間中は28℃以下の温度管理を行い、特に30℃以上の高温や過湿は避ける。 ②育苗器内の温度は、付属センサーだけでなく温度計を併用し、温度ムラに注意する。 ③育苗時期の天候は気温の変動が大きいため、育苗ハウス等の開閉をこまめに行う。
水 稲	イネミズゾウムシ	全 域	—	平年並	近年、育苗箱施用剤が普及しており、発生程度は低く抑えられている(±)。	水田侵入盛期が移植時期と重なる場合は、被害が大きくなるので注意する。
麦 類	赤かび病	中通り 会津 浜通り	早い 早い	平年並 やや多い	①出穂期は平年より早いと予想される。 ②前年の発生は、中通りと会津では平年並であった(±)が、浜通りではやや多かった(+)	①麦の開花始め(小麦では出穂期の7～10日後頃)が薬剤防除適期であり、時期を逃さず実施する。 ②前年に発生が見られた場合は防除の徹底をはかる。

注) 予報の根拠の中で (+) は多発要因、 (-) は少発要因、 (±) は平年並要因であることを示す。

2 果樹

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
リンゴ	うどんこ病	全域	—	平年並	4月中旬の花そう葉での発生は、平年同様に確認されなかった(±)。	被害葉は見つけしだい、せん除して適切に処分する。
	リンゴハダニ	中通り 会津	— —	やや少ない やや多い	越冬卵が確認されたほ場の割合は中通りで平年よりやや低く(—)、 会津で平年よりやや高かった(+) 。	越冬卵密度の高い園地では、落花期以降の発生密度に注意し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達したら殺ダニ剤を散布する。
モモ	せん孔細菌病	中通り 北部	—	やや多い	①前年秋季の新梢葉における発生ほ場割合は平年並であったが(±)、 伊達地域では発生程度が平年より高かった(+) 。 ②春型枝病斑の発生ほ場割合は、福島地域、伊達地域ともに平年並(±)であった。	春型枝病斑は見つけしだい、せん除して適切に処分する。
	モモハモグリガ(第1世代幼虫)	中通り 北部	—	平年並	越冬成虫の確認地点割合は、平年並であった(±)。	初期の発生密度を抑えるために、第1世代幼虫発生期(落花10日後)にネオニコチノイド剤を散布する。 前年発生が多かった地域では防除を徹底する。
ナシ	黒星病	中通り 浜通り	— —	平年並 やや少ない	鱗片における越冬病斑の発生ほ場割合は中通りで平年並(±)、浜通りで平年よりやや低かった(—)。	花(果)そう基部に黒星病が発病している場合は、花芽に鱗片が脱落せず付着しているので、見つけしだい、丁寧に除去し、適切に処分する。 開花前後の防除に加え、病斑が確認されるようであれば、あまり間隔をあげないように留意し十分量散布する。
	ハダニ類 (リンゴハダニ、クワオオハダニ)	全域	—	平年並	越冬卵が確認されたほ場の割合は平年並であった(±)。	越冬卵密度の高い園地では、落花期以降の発生密度に注意し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達したら殺ダニ剤を散布する。

果樹共通 (リンゴ、モモ、ナシ)	ハマキムシ類(越冬世代)	全域	—	平年並	越冬世代幼虫の発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	今後の発生に十分注意し、発生の多い園では防除を徹底する。 複合交信かく乱剤を使用する園地では越冬世代成虫発生初期までに設置する。
---------------------	--------------	----	---	-----	----------------------------	---

注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(-)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。

<その他注意を要する病虫害>

・リンゴ腐らん病

今後、降水量が多くなると、感染が拡大するおそれがあります。防除を徹底しましょう。

ほ場での発生状況をよく観察し、本病が発生している枝や幹の発病部位は、徹底して除去しましょう。枝腐らんは、健全部5cm以上含めてせん除し、胴腐らんは、周囲の健全部まで5cm広く削り取ってください。切り口には必ず殺菌塗布剤を塗布し、感染を防止しましょう。また、除去した発病部位は伝染源となるおそれがあるので、園外に持ち出し適切に処分しましょう。

「ふじ」は摘果が遅れると果柄が脱落しにくくなり、本病に感染しやすくなるので早期に摘果を実施しましょう。

・リンゴ黒星病

- ①本病の最重点防除時期は、展葉期から落花20日後頃であるので、この期間の薬剤散布間隔が開きすぎないように注意し、散布ムラのないよう十分な量を散布しましょう。
- ②青森県において、リンゴ黒星病の重要防除剤であるDMI剤について耐性菌の存在が確認されました。
- ③本県では未確認ですが、本剤耐性菌が蔓延すると防除薬剤の効果が低減するおそれがあるので、DMI剤の使用回数に留意しましょう。
- ④また、リンゴ苗木・穂木等を導入する際は十分注意しましょう。

病虫害防除所HP「注意喚起 他県でのリンゴ黒星病におけるDMI剤耐性菌の発生について」

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/apple-dmi.html>

・クビアカツヤカミキリ

近年、外来種であるクビアカツヤカミキリが全国各地で確認されております。本県では未確認ですが、確認した場合は病虫害防除所まで連絡願います。

本害虫の幼虫は、サクラや果樹類(モモ、スモモ、ウメ等)の樹の内部を食い荒らし衰弱させ、2~3年間樹内で成長し、6月中旬~8月上旬頃に成虫となって樹の外に出ます。成虫の体長は約3~4cmで、全体が光沢のある黒色をしており、前胸部が赤いのが特徴です。疑わしいフラス(木屑と虫糞が混じったもの)や成虫を確認した場合は、病虫害防除所までご連絡ください。

病虫害防除所HP「注意喚起 クビアカツヤカミキリの情報提供にご協力願います」

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/kubiaka.html>

3 野菜・花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	多発すると防除が困難になるので、発病初期から防除を実施する。
	灰色かび病	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	①薬剤のみで抑えることは困難なので、加湿にならないよう換気を行う。 ②発病果や罹病した果梗、老化葉などは、ハウス内に放置しない。
	アブラムシ類	全域	—	やや多い	発生ほ場割合は平年よりやや高かった(+)	低密度時から防除を実施する。
	ハダニ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	①低密度時から防除を徹底する。 ②抵抗性の発達が懸念されるので、殺ダニ剤の選択には注意する。 ③カブリダニ等天敵資材を放飼している場合は、天敵に影響の少ない薬剤を選択する。
	コナジラミ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	低密度時から防除を実施する。
	アザミウマ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	発生が多くなると果実被害が生じるので、低密度時から防除を実施する。

注) 予報の根拠の中で (+) は多発要因、(—) は少発要因、(±) は平年並要因であることを示す。

イ チ ゴ	<p>○注意が必要な病害虫</p> <p>■土壌病害（萎凋病、萎黄病、炭疽病）</p> <p>無病地からの採苗、育苗を徹底することが基本的対策となるため、ほ場で発病が確認されている場合は次年度に向けて以下の対策を実施してください。①育苗用土壌やポット等の資材を一斉に更新する。②炭疽病は水媒伝染するため、親株を育苗する際は雨よけ育苗や高設育苗を行うとともに、頭上からの多灌水を避ける。③発病株、または発病が疑われる株は、見つけ次第その周囲の株と土を含めて丁寧に抜き取り、適切に処分する。④これらの病気が発生したほ場で連作せざるを得ない場合は、土壌消毒を実施する。</p>
野菜・花き共通	<p>■タバココナジラミ</p> <p>2006年に本県のトマトでタバココナジラミバイオタイプQの発生が確認されました。現在までに、トマト以外にナス、キュウリ及び花き類で寄生を確認しています。本種は、トマトの重要病害であるトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）を媒介するほか、近年、西日本から関東地方で問題となっているウリ類退緑黄化病の原因となるウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）も媒介します。</p> <p>購入苗などにより本種が持ち込まれるおそれがありますので、十分注意してください。</p>

より詳しい発生状況や防除対策は、

福島県病害虫防除所ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/> をご覧ください。

お問い合わせは TEL:024-958-1709、FAX:024-958-1727 または e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp へお願いします。